



倉持くん



saolipooh

倉持くんは、オタクである。そして、ちょっと、でぶっちょである。ちょっと、というか、まあ、体重は120kgくらいある。倉持くんは、19歳である。倉持くんは、アルバイトをしている。いわゆるフリーターというやつだ。勤め先は、家の近所のスポーツジムセンター。市が運営しているやつで、時給は低い。しかし、倉持くんは、気にしない。生活に必要なものは、両親が用意してくれるし、生活に必要なもの以外は、倉持くんは必要としない。友達がいなくて、友達と遊びに行くこともないし、なにしろオタクなので、遊びは家のなかで事足りてしまう。どういふことで遊ぶのかというと、インターネットがつながったパソコンで、ゲームをするのである。ゲームはとても面白い。それは、子供だって知っていることだ。

倉持くんの楽しみは、月に一回、秋葉原に行くことだ。でも、何も買わない。秋葉原の雰囲気を楽しみ、商品を見て、店頭で、無料で体験できるゲームをする。そして夕飯の時間になる前に家に帰ってくる。ご飯は家で食べる主義だからだ。電車代は、前々から母親に言っておけば、母親が出してくれる。ちなみに、倉持くんは、銀行に行ったことがない。ATMも触ったことがない。クレジットカードもエディも持っていない。倉持くんには、必要がないのだ。

だから、倉持くんは、必死に働く必要はない。でも、ゲームだけで毎日を過ごすのは、世間的にまずいだろう、ということもあって、フリーターをしている。さっきも言ったけど、近所のスポーツジムセンターでだ。そこにはプールだってある。

倉持くんは、でぶっちょである。さっきも言ったっけ。スポーツジムセンターには、制服はないが、指定のポロシャツがあって、みんなそれを着る。でも、でぶっちょの倉持くんに合うポロシャツはないから、倉持くんは、一人だけ、白いワイシャツのそでをまくって着る。それで仕事をする。仕事の内容は、ジムセンターに来た家族や仲間同士の人たちからお金を受け取って、代わりに腕につけるバンドを渡すこと。それ以外にも細々とあるのだが、そんなに難しいことはない。ただ、昨今、健康ブームなので、安い市営のスポーツジムセンターは忙しい。それがちょっと、倉持くんが不満に思うところだ。

スポーツジムセンターには、たくさんの方が働いている。しかし、実は数日前、長くここで働いていたパートのおばさんたちが5人まとめて辞めてしまった。なんでも、店長が変わったことでいろいろと体制が変わって、そのやり方についていけない、とのことだった。代わりに入ってきた人たちは、おばさんやら学生やら様々だったけど、みんな仕事のことはよくわからない。倉持くんも、この仕事をして一年くらいしか経ってないので、長いこと仕事をしてきたおばさんたちがやっていた、細々としたことはよくわからない。みんな、終了時間に流す「蛍の光」のテープを探したり、忘れ物台帳を探したり、シフト管理表の作り方を考えたり、てんやわんやになる。そのとき、倉持くんは、ちょっと良いことをする。倉持くんは、自分ではあまり仕事ができるほうではないけれども、他の人の仕事を見ていることは多かった。観察眼があるのである。だから、どこに何があった、とか、確かこういうやり方をするのだ、とか、よく、倉持くんが言い当てることができた。そうすると、みんな、倉持くんを褒める。「倉持くん、偉いね。」とか「倉持くん、よく知ってるね。」とか言ってくれる。そうすると、倉持くんは、白い肌を真っ赤にする。小さな目をぱちくりさせて、顔を下に向けて、太い腕を突き出して、太いウィナー

みたいな指を大きく広げて、両手を振って、「いやいやいや。」と言う。倉持くんは、照れ屋さんなのだ。そして、後ろに下がってしまう。でぶっちょの倉持くんが、照れると大きな体を揺さぶって、後ろにすごすごと下がってしまうのだ。それを見て、パートのおばさんは、なんだか楽しそうに笑う。

倉持くんは、幸せである。多くのことを望まない。なんてったって、倉持くんはオタクなのである。

倉持くんは、ときどき、笑う。人と話をしているときよりも、一人で思い出し笑いをするこのほうが多い。

この前は、その前日にインターネットで見つけた面白いサイトのことを思い出して、仕事なのに笑ってしまった。倉持くんは、笑う。倉持くんは、「くつくつくつ」と笑う。両手を口元に持ってきて、静かに、でも楽しそうに「くつくつくつ」と笑う。パートのおばさんが、その倉持くんを見て、ちょっとびっくりした。そして「倉持くん、何を笑っているの？」と聞いたので、倉持くんは、そのサイトのことを教えてあげた。パートのおばさんは、よくわからなかったみたいだけど、あとでそのことを娘さんに話した。娘さんは、そのサイトを見つけて、倉持くんの笑った理由がよくわかったらしい。母親と一緒に大笑いでそのサイトを見たそうだ。今、そのサイトは世間的にとっても有名らしい。

倉持くんは、今、ある雑誌にハマっている。雑誌というか、フリーペーパーというもので、ある企業が出している。無料でもらえるのだが、いろんな情報が載っていて楽しい。でも、そのフリーペーパーは、東京でしか置いていない。倉持くんは、ほとんど外出をしない。月に一度の秋葉原くらいしか、東京に行く機会がなく、そして、いつもその日にはフリーペーパーは売り切れになってしまうことが多い。でも、前に面白いサイトを教えてあげたパートのおばさんの娘さんは、そのときのことを感謝して、東京に行ったときにフリーペーパーを見つけたら、持ってきてくれる。そして、パートのおばさんに渡してくれる。パートのおばさんは、倉持くんのことが大好きなので、フリーペーパーをくれるのだ。倉持くんは、そうして、会ったことのない娘さんからいつもフリーペーパーをもらうことができる。それがとても面白い。娘さんは、よく東京に行く人らしい。羨ましいような気がするが、でも、たいして気にならない。倉持くんは、幸せなのだ。

倉持くんは、幸せである。永遠にこの幸せが続くのかどうか、それはよくわからない。でも、誰も倉持くんに文句は言えない。